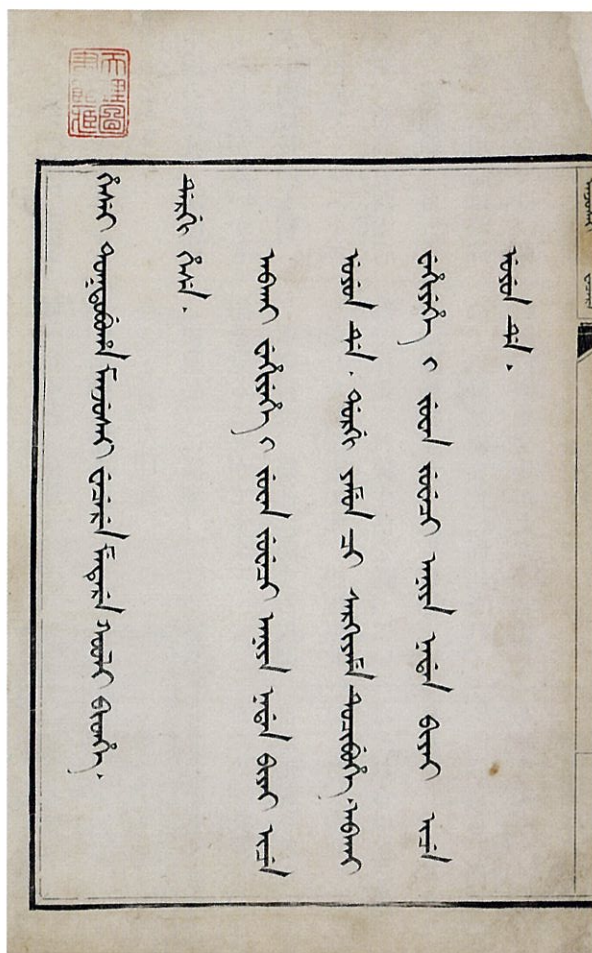


やまとの名品 天理図書館



きんていまんしゅうさいしんさいてんてんれい
欽定滿洲祭神祭天典禮

乾隆12(1747)年序

6卷6冊

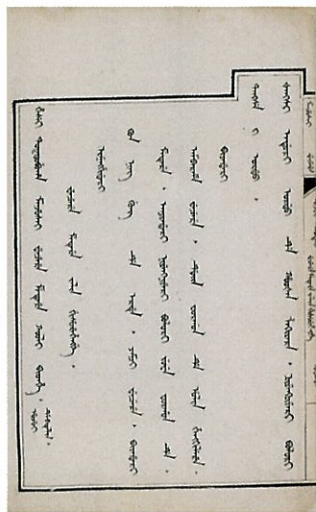
縦29.0cm 横20.1cm

『欽定滿洲祭神祭天典禮』として世に知られる資料ですが、掲出書は滿洲語で書かれていて、書名も「Hesei toktobuha man jusai weere metere kooli bit he」と記載されています。

滿洲語は中国の民族、滿洲族の言語です。なじみが薄いかもしれませんが中国最後の王朝、清朝を興した民族で、ラストエンペラー溥儀や、名高き西太后も滿洲族です。清朝約二百五十年間、中国の第一公用語は滿洲語で、今も北京の故宮では、坤寧宮や乾清宮などに漢字と滿洲語で書かれた扁額を掲げています。昨年の訪中時、故宮を貸し切って歓待されたトランプ大統領

領も目にしたかもしれませんが、日本でも、那覇の首里城へ行くと、琉球王が清朝皇帝から与えられた印鑑（複製品）に滿洲語を見ることができま

す。本資料は、祭礼に関する規則を記した勅撰書です。中国東北部で採集・狩猟生活を送っていた滿洲族ですが、北京に都を定めて以降は漢文化に同化され、風俗習慣や文化が大きく変化しました。古来信奉してきたシャーマニズムも、祭天儀礼の主宰者であるSaman（薩滿）の祝辞にまで齟齬が生じるようになって



本文書名部分

たため、乾隆帝の命により典礼書が編纂されたのです。巻頭には、今、改正して文書に記さねばそれらは egeraku oci(忘れ去られてしまう)として、mini ho(朕自ら)作業に加わったとあります。

掲出本は清朝皇帝の命により、紫禁城で刷られた武英殿版です。
(天理図書館 近江めぐり)